



自治医大卒業医師を対象とした調査から描いた「地域医療に求められる医師像」

自治医科大学地域医療学センター(地域医療学部門) 神田 健史 (新潟県 22 期)

このたび、自治医科大学卒業医師等を対象に行った調査の結果と、その結果を参考にまとめられた「自治医大からの地域医療への提言」を週間日本医事新報 2011 年 12 月 17 日号で御紹介頂きました。

私は自治医科大学を卒業後、義務年限を主に佐渡島で過ごしました。そこで地域医療の楽しさに魅せられ、自分としてはそれなりにいい質の地域医療を提供していたと思っていました。その後本学に戻り、全国の多くの卒業医師の診療現場を実際に見させて頂く機会を頂きました。そこで見た診療はどれも自分とは比較にならない素晴らしいものばかりで非常に感動しました。しかし一方で、その診療範囲が医師によって微妙に異なることにも気付きました。これは、考えれば当たり前ですが、病院か診療所かというセッティングや、同じ施設内にある他の診療科や、後方病院等の協力・活用できる近隣医療資源などによって、自らの診療範囲が影響を受けるからです。これは実際にへき地に勤務した経験から容易に理解できました。さらに地域医療を支える現場の医師には、診療範囲とは異なる共通点が存在するのだろうという考えにも思い至りました。このことが今回の調査を行ったきっかけです。ちょうど、国や学会が中心となって総合医に関する議論が行われている時でした。診療範囲や行った研修等によって総合医を資格化することなどが検討されていました。また、そのために海外の例なども参考にされていました。このことは前述のように感じていた私には違和感があり、その違和感を表現するために今回の調査を計画しました。



調査は網羅的な 202 項目の疾患・症候について、自分自身で診断可能か、治療可能か、もしくは、診療さえ行わないかを問う自記式アンケート方式で行いました。幸い、多くの地域医療に従事している自治医大卒業医師・他大学卒業医師、自治医大附属病院医師の御協力により、高い回収率が得られ、結果をまとめることができました。その結果は「自治医大からの地域医療への提言ワーキンググループ」でも取り上げられ、わが国の地域医療に求められる医師像として以下のような医師像が提言されました。

—専門領域にとらわれない幅広い診療が行える医師像—

- ・幅広い症状に対して診療ができる
- ・初期救急には必ず対応できる
- ・地域のニーズに応じて自らを柔軟に変化させることができる

一見すると言ひ古された内容にも見えますが、現場の調査に基づく本提言ならではの「ひねり」が効いていますので御一読頂ければと思います。例えば、図は3点目の医師像について説明するために用いた調査結果です。縦軸は各調査項目に対し診断できると回答した医師の割合を群毎に表わしています。横軸は項目数を表わしていますが、群毎にその割合の高い順に左から右に並べ直しています。この図からは2つのことが分かります。一つは横の広がり大きいことから分かるように自治医大卒総合医群では診断できる疾患が非常に多いと言うことです。もう一つは自治医大卒総合医群が均一な集団ではないと言うことです。均一な集団ではほぼ全ての医師が共通して診断できる疾患があり、頂点が高い山のような図になりますが、自治医大卒総合医群では比較的頂点が低く丘のような図になっています。前者は言ひ古されたものかも知れませんが、後者は指摘されたことがないと思います。調査のきっかけになった前述の考えを裏付けるものの一つと思います。

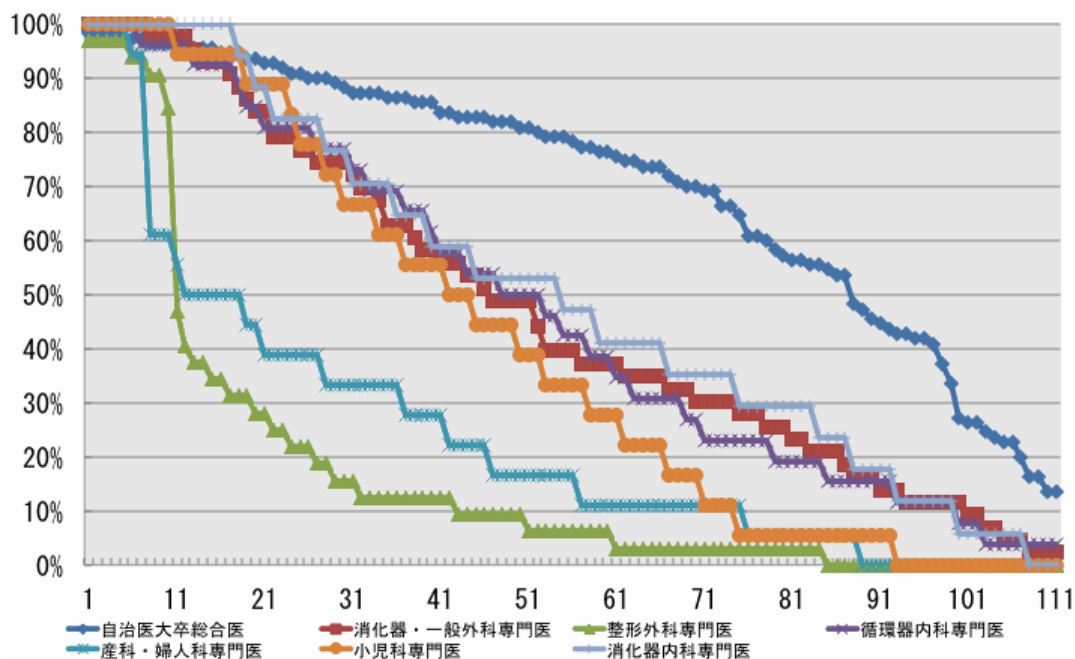


図 診断可能な疾患の、項目数と医師の割合の関係
(週間日本医事新報2011年12月17日号より一部改変)

医事新報で御紹介頂いてから既に多くの反響を頂いております。出来れば、総合医の制度化を考えている国、学会等には単純な診療範囲の明確化では総合医を規定できないことの資料として参考にして頂きたいですし、これから医師を育成する医科大学・医学部、都道府県等にはどのような医師を育てるべきかの参考にしてもらえればと思っています。この調査は現場では当たり前と感じることを調査で明らかにしたに過ぎません。しかし、多くの反響を頂いたことを考えると、現状をきちんと記述すること自体にも大きな意味あるのではないかと思います。今後はこの研究を発展させ、地域医療に求められる医師の育成、またそれらの医師を活用しての地域医療提供体制構築に向けた研究をしたいと思っています。おそらく多くの方の協力と、現場の先生方の意見が重要だろうと思っています。興味を御持ちの方、御意見を御持ちの方は是非御連絡頂けますよう御願ひ致します。

【発行】自治医科大学大学院医学研究科
地域医療オープン・ラボ運営委員会
 事務局 学事課大学院係 〒329-0498 栃木県下野市薬師寺 3311-1
 TEL 0285-58-7477/FAX 0285-44-3625/e-mail openlabo@jichi.ac.jp
<http://www.jichi.ac.jp/graduate/index.htm>